

島根の景観に重要な役割を果たしている赤瓦。緑豊かな山里や、鶯（いらか）が連なる街並みで、季節や時間によって移り変わる光に照らされて、一日に何度も表情を変えながら独特の風合いを醸し出している。伝統的な赤瓦に加えて最近では洋風建築にもマッチする製品も増え、消費者のニーズに添っている。赤瓦を愛し、それぞれの生活様式や趣向に合わせて住宅に取り入れている人たちを紹介する。



石州瓦がマッチした洋風建築の米村広志さん宅—江津市渡津町



改築前の米村広志さん宅—江津市渡津町

米村広志さん宅

(江津市渡津町)

日本家屋が立ち並ぶ江津市渡津町の住宅街で、とんがり屋根の赤茶色が異彩を放っていた。近づくと、焦げ茶色や灰色がまだらにある洋瓦。家主の米村広志さん(60)は3月、屋根材の葺き替えに、石州瓦を使った。

石州瓦にも洋瓦があることは、昨年10月ごろ、近くの工務店に相談するまで知らなかった。「石州瓦は和瓦だけと思っていたから驚いた」。自宅は築20年以上が経過し、青色だった板状屋根材は海風の影響などで色あせただけに、耐久性に優れる石州瓦はぴったりだった。

工務店を通じてサンプルを取り寄せると、数種類の色味があった。念頭にあった青はなかったが、暖かみのある赤茶色に即決。施工に当たっては、県と市の補助制度が活用でき、費用も低く抑えることができた。新築時とは趣を変えてリニューアルした自宅を見上げ、出来栄への良さに満足した。

心を満たしたのは、品質や見た目だけではなく、幼いころから、登り窯で瓦を作る様子を見てきたほか、友人にも瓦関係者が多く、「石州瓦を使うことで、少しは地元のためになったかな」という思いもあった。

自宅屋根の葺き替えをきっかけに、石州瓦に対する認識は変化。石州瓦のもの作りも消費者のニーズに合わせるようになってきたと思う。自宅の屋根は「一生もの」と笑った。